

川根本町 図書室だより

6月

2023年6月号

- ・文化会館図書室(小長井)
- ・山村開発センター図書室(上長尾)
- ・移動図書館車やまびこ号: 川根本町内7コース
- TEL: 0547-59-3106(文化会館)
- TEL: 0547-56-2231(山村開発センター)

- ☆ 開室時間: 午前9時～午後5時
- ☆ 休室日: 月曜日・第3日曜日(18日)
- ☆ やまびこ号巡回コースは



かわねフォン、町のホームページでご確認いただけます。
なお、年間予定表は図書室で配布しています。

新 着 図 書

『天才読書 世界一の富を築いたマスク、ベゾス、ゲイツが選ぶ100冊』 山崎良兵 著 日経BP

読書には人生を変える力がある

文



世界一の富豪になった3人は猛烈な読書家。歴史、SF、科学、経済学、古典から最先端まで。珠玉の100冊のエッセンスを詳細に解説！
"21世紀の教養"が学べる最高のブックガイド！

『ひとり暮らしが一番幸せ 97歳母と75歳娘』 松原かね子 / 松原惇子 著 中央公論新社

生きるヒントが盛りだくさん！

山



親子はスーパの「冷める」距離がいい！？ 43年ぶりの同居と別居、そして2度の骨折...人生100年時代、お互い後期高齢者になれば、ままならぬことばかり。それでも、自分らしく、ハッピーに生きるには？ 母と娘、それぞれの本音飛び交う爆笑エッセイ。

『世界一わかりやすい!インボイス』

永井圭介 著 高橋書店

最新軽減措置を徹底解説！

文

2023年10月開始！ インボイス制度の概略がざっくりわかる。2023年に本格的に始まるインボイス(適格請求書保存方式)。フリーランスだけでなく、その取引企業や、副業で収入を得るサラリーマンにも関係する新制度の概略とその対応法が、短時間でサクサク読める解説書。



『ものがわかるということ』

養老孟司 著 祥伝社

考えることが自分を育てる

山

ものがわかるとは、理解するとはどのような状態のことを指すのか。子供の頃から「考えること」について意識的で、一つのことについてずっと考える癖があったという養老氏が自然や解剖の世界に触れ学んだこと、ものの見方や考え方について、脳と心の関係、意識の捉え方について解説した一冊。



文化会館図書室

ペットと暮らす

- ・「楽しい金魚の飼い方」
- ・「どんな咬み犬でも幸せになれる」
- ・「ヒョウモントカゲモドキと暮らす本」
- ・「猫は毛色と模様で性格がわかる」
- ・「猫と住まいの解剖学」 他



※所蔵状況 文 文化会館図書室 山 山村開発センター図書室

裏面へ続く

◎ 新着図書

🔍 新刊の詳しい情報は、【川根本町図書ネット】で検索。または、右記QRコードよりご確認いただけます。



川根本町
インターネット
図書室
ホームページ



図書日より
バックナンバー

文化会館図書室所蔵	山村開発センター図書室所蔵
<p>●『マリコ、東奔西走』 林真理子 著 文藝春秋 マリコ、なんと母校日本大学の理事長に電撃就任！ 大学の「マッチョな体質」を変えるための最初の一步を踏み出したのだった。昼間は理事長室に通い、夜には原稿、そして週末は全国を飛び回る。理事長になっても我らのマリコは止まらない。</p>	<p>●『忍びの副業 上/下』 畠中恵 著 講談社 滝川弥九郎は甲賀忍びの末裔。かつて戦国の世では、伊賀者と並び勝敗の鍵を握る者だったのに、今や日が一、江戸城の警護をするために番所に座っているだけ。忍びの技はひっそりと伝えられているが、それを使って何かをなす機会もない。忍びは再び輝ける？</p>
<p>●『文豪、社長になる』 門井慶喜 著 文藝春秋 1923年、作家・菊池寛が発行した「文藝春秋」。社員の裏切り、戦争協力による公職追放、そして、会社解散の危機……。激動の時代に翻弄されながらも、文豪として、社長として、波乱に満ちた生涯を送った寛が、最後まで決して見失わなかったものとは…。</p>	<p>●『方舟』 タ木春央 著 講談社 地震により山奥の地下建築に閉じ込められた柵一たち。そこへ、水が流入しはじめ水没の危機に…。そんな矢先に殺人が起こった。だれか一人を犠牲にすれば脱出できる。9人のうち、死んでもいいのは…死ぬべきなのは誰か？</p>
<p>●『また会う日まで』 池澤夏樹 著 朝日新聞出版 海軍軍人、天文学者、クリスチャンとして、明治から戦後までを生きた秋吉利雄。この三つの資質はどのように混じり合い、競い合ったのか。著者の祖母の兄である大伯父を主人公にした伝記と日本の近代史を融合した歴史小説。</p>	<p>●『茜唄 上/下』 今村翔吾 著 角川春樹事務所 歴史とは、勝者が紡ぐもの…。では、何故『平家物語』は「敗者」の名が題されているのか？『平家物語』が如何にして生まれ、何を託されたか、平清盛最愛の子・知盛の生涯を通じて、その謎を描く。</p>
<p>●『獅子の涙』 木村花道 著 柏艸舎 都内で万屋を営む、元暴走族総長・織田人生の元に一件の依頼が舞い込んだ。「故人の遺志を叶えるため遺産を相続する実子を探し出して欲しい…」織田とその仲間たちは、利権に固執する政治家や信者を食物にする宗教家など、様々な敵に相対する。</p>	<p>●『魔女と過ごした七日間』 東野圭吾 著 KADOKAWA AIによる監視システムが強化された日本。指名手配犯捜しのスペシャリストだった元刑事が殺された。「あたしなりに推理する。その気があるなら、ついてきて」不思議な女性・円華に導かれ、父を亡くした少年の冒険が始まる。</p>
<p>●『おばけのしかえし』 内田麟太郎 文 山本孝 絵 岩崎書店 おばけ退治にきた豪傑にやられっぱなしの大人たち。いったい豪傑にたちうちできるおばけはいるのでしょうか？ 迫力満点の絵に圧倒されるおばけの絵本</p> 	<p>●『世界一おおきいのりもの図鑑』 講談社 世界一大きい乗り物って、どんなものでしょう？ 「世界一大きい自動車」「世界一大きい船」「世界一大きいブルドーザー」 美麗&迫力ある写真を多数掲載。</p> 



山村開発センター図書室所蔵

「実家じまい終わらせました！」

松本明子 著 祥伝社

失敗に学んで大赤字回避！

タレントの松本明子さんの父親が宮大工さんに頼み、こだわりにこだわって建てた「木組み」の自慢の家。父親が人生をかけたマイホームをたくされた松本さんは、両親の生前・死後を合わせ空き家として25年間維持し続けました。維持総費用は1800万円！ にもかかわらず売却時の初回査定額:約200万円 だったそう。…かなりショックですね。

松本さんが両親の死後直面した実家とお墓の片づけの実体験を元に、もっとうまいやり方はなかったのだろうか？と専門家と一緒に考えていく本書は、非常に具体的かつわかりやすい内容！ 重たいテーマではあるのですが、これからの時代、直面せざるをえない人も多いのではないでしょうか…。片付けには労力やお金もかかりますが、それと同時に心の中の片付けをするという作業も必要になってきます。思い出のつまった家ですから片付けに際しては、心の底で処分したくない、できないという思いの障壁が立ち塞がります。本書ではそういった心の解きほぐし方までも踏み込み、より納得のいく形を探っていきます。とても参考になる一冊です！

スタッフS